浜松
南高新聞

発行所
県立浜松南高校新聞部
静岡県浜松市米津町
印刷
浜松共同印刷株式会社

校訓
最善を
尽くそう

主な記事から

ネイト君に聞く——日本文化異聞（2面）
古都・京都奈良の旅（2面）
研修旅行アンケート（2面）
宮本先生ヒマラヤを行く（3面）
新人講師紹介（3面）
厳しさ増す進学、就職（4面）
運動部総括（4面）
迫力欠く体育大会（4面）
アルバイトは是か非か（4面）

現状改革に「待ったなし」

新執行部発足

—生徒会に対して関心の目を—

山浦亮祐生徒会長を中心とする生徒会新執行部が10月1日から活動を開始した。体育大会、文化展パートⅡなどの諸行事を終え、各専門委員会も例年になく意欲的な取り組みをみせている。

そこで生徒会室をたずねて新執行部のメンバーに現在の心境や来年度への抱負などを語ってもらった。今後の奮闘を期待したい。

南高の改革戦士たち

会長　21HR　山浦亮祐

〝高校の生徒会というのは中学の生徒会に比べ活動が消極的だなあ〟と思ったのが南高に入学して初めて見た執行部への第一印象でした。事実、執行部へ入る前まで生徒会に対する関心はごく薄く、「現在、執行部はどんな活動をしているんだろう。」と疑問に思うくらいでした。しかし、いざ会長になってみると当然今までの自分のような人を極力減らしていかなければならないわけであります。そこでなぜ活動内容が知られてないのだろうと考えてみると、執行部自体の宣伝の甘さや各種委員会とのつながりの弱さなどが浮き出て来ました。このような問題を解決するべく現在にいたっているわけですが、生徒会のような大きな組織は、変えようと思ってもすぐに変えられる代物ではありません。改革ということを何代もの後輩に引きついでもらい少しずつ理想に近づけていってもらいたいです。その中心となるしっかりとした基盤を現執行部で作っていく姿勢です。地味だったイメージを少しでも派手に感じてもらえるようになれば、生徒会の活動が活発になって来た証拠です。

副会長　21HR　藤原建晋

体育大会、文化展パートⅡと終え、不安いっぱいだった後期生徒会も、ようやく軌道にのってきたようです。今までに、僕も何度か苦い体験をさせてもらいました。今後はその体験を生かし、これからの活動の糧となるように頑張ろうと思います。幸い役員が副会長ということもありますので、現在の会長を補佐すると同時に、生徒会を良い方向に向けていこうと思います。さて、最後に一言。皆さん、もっと生徒会に対して関心の目を。

会計長　27HR　幸田美樹

会計というと、ただ計算するというイメージがありますが、実際は思ったより複雑で非常にそそっかしい私は間違える事が多く訂正印が手離せません。

仕事は主に支出調書の作成とその事柄の帳簿への記入です。支出調書は部活ごとにあるので知っている人も多いでしょう。その他、予算案の作成や決算など大変なものもあります。

生徒会の予算は皆さんのお金ですから大切に使いましょう。

書記長　23HR　内山和弘

何故だ、どうして生徒会会報を発行するのが精一杯なうえ、こんなものを書かされるのだろうか。これが運命というものですか。無能な僕ですが仕事はしっかりやりますので御安心を。

生徒会役員任命式

悪戦苦闘の活動事情

—専門委員会—

交通委員長　22HR　岡部晃典

僕が交通委員長をひきうけてからはやくも二ケ月以上がたちました。最近ではそれなりに自覚もでてきて仕事の方もがんばっています。なにぶんにも不慣れですのでご迷惑をおかけするかもしれませんが、これからもよろしくお願いします。

文化委員長　25HR　鈴木郁

ひょんなことから文化委員長になり、そして、後期文化委員会の数少ない活動の一つである文化展パートⅡが一応終わったわけですが、正直なところ慣れない事ばかりでとまどいの連続でした。本当に反省する事ばかりで自分が生徒会役員としていろいろな面でまだまだ未熟である、と痛切に感じました。これから行われる予餞会などでは、この文化展パートⅡの反省をもとに少しでも理想に近づけられるよう精一杯努力していきたいと思います。

保健委員長　27HR　松本尚美

前期の保健委員長の松下尚美先輩のあとを後期は、字ちがいのこの私が委員長となりました。

今年からは美化の仕事がなくなったおかげか私にぴったりの名ばかりのだと聞きました。ところがどっこい後期には研究というものがあったんですよ。アンケートなど全員に出してもらいたかったのですが…。

ご協力して下さったみなさんありがとうございました。

そして私も伊藤先生、たご先生、保健の先生と協力して保健委員長としてつとめたいと思いますのでよろしく…。

環境整備委員長　28HR　木下由美子

環境美化委員の木下由美子です。環境整備委員をあまくみたあたしがバカでした。あの時、気安く「うん。いいよ。」といったのがまちがえでした。

仕事としては、まずそうじの徹底です。今、毎週環境整備委員が見回りをしています。最近教室が汚れています。みなさんしっかりそうじをしましょう。

私も先生方と仲良くしてがんばるので応援してください。

図書委員長　21HR　鈴木信久

初めまして、図書委員長です。後期の主だった活動は読書会なのですが、それはもう済みました。あとは、地道な図書館での仕事です。準備は万全に整えてお待ちしています。ぜひ図書館にお越し下さい。

人を語る

小野沢要道先生

我が師を追慕して思うこと

先生は、引佐郡細江町気賀にある金襴寺というお寺の長男としてお生まれになりました。お家は厳格な家庭で、少年時代からよく掃除、おつかいなど、寺の手伝いをなさっていました。一方ちょうどその頃は草野球全盛の時代で、先生も旧制中学の時には社会人の野球団と試合をされ投手を務められたとか。その後、先生は法政大学への進学のため、上京されました。その頃、上野駅の東北の門辺りには、浮浪者がいっぱいで、ヤミ米をその辺で売りさばいているのをよく見かけられたとのこと。そして、冬になると上野公園や地下道では、寒さで凍え死ぬ人が多く、その辺の臭いは凄かったようです。更に、旅館で服毒自殺をする者もいたなど、当事の生活の酷さがうかがえます。先生はそういった人達の所へお経を上げに行かれた経験もあり、人生の悲哀を感じずにはいられなかったとおっしゃいました。

先生の学生時代に最も心に残っている人は誰かとお尋ねすると、「大学時代に、上野の広徳寺という寺に、弟子入りとはまた違った客分という形で下宿させてもらった。数年前に亡くなってしまったが、そこの住職さんには大変世話になり、多くの教えを受けた。」とお話しになりました当時は終戦直後ということもあって、この寺では仏教大学生ほか仏教関係の人だけしか下宿できなかったそうです。そういった事情もあるなかで、その住職さんは法政大学高等師範部英文科に進学され、教師になろうとする先生の考えに理解を持ってくれたとのこと。その住職さんについて先生は次のように語っておられます。「厳しかったが人間味にあふれ、自分に厳しく人には寛大だった。」

さて、その広徳寺というお寺ですが、近衛の大名というだけあって、先生が下宿なさっていた頃は名士の出入りも多く、先生もそういった人達をよく見かけられたとか。先生は戦中、戦後の厳しい世の中を生き抜いて来られ、生活は苦しかったようですが、「人間の心は物質量の差でそう変わるものではないと思う。人間は貧しさには、案外強いものだ。」と実感をこめて述べられました。「夢は？」とおうかがいすると、苦笑されながらも、仏書をもっと多く読んで、務めの経験を生かした仏教の勉強をしたいとおっしゃいました。最後に、「人には寛大であり、自分自身には厳しくありたい。自分の世界に縛られ、他の事が分からなくならないようにしたいものだ。」と話され、現代の若者たちへの忠告のようにも感じられました。

論説

「シゴキ」の裏側に何を見る？

小学学や中学校での「イジメ」が大きな社会問題になっている。よく指摘されるようにイジメそのものは昔からよくあったことだが、現在のイジメの特徴は、歯止めのない残酷さ・陰惨さにあり、自殺や時には他殺にまで追い込む所にあるだろう。

ではなぜ「歯止めのない」といわれるイジメがはびこるのだろうか。

いうまでもなくそこには多くの政治的、あるいは社会構造的要因がからんでいるだろう。では、そうした要因のなかから、戦後政府が一貫してすすめてきた「共通一次」を代表とする差別化教育政策との関連を拾いあげてみよう。

戦後日本の四〇年間にわたる教育政策での重要な柱の一つは文部省の定めた一本のモノサシによる人間の差別化である。多様な能力や個性のうち、このモノサシに合う人間だけを拾い出し、あとは切り捨てて、あたかも人間として、無価値で下等だと当人にも周囲にも信じ込ませる政策である。差別化はもう少しカムフラージュした単語でいえば「選別」であり「ランキング化」である。すなわち一方的な一本のモノサシによって「価値のある高級な人間も「無価値で下等な人間」との両極を設定し、そのあいだをモノサシの目盛りでこまかくランクづけする作業が日本的教育の重要な目的であった。

この差別化政策は、大学・高校に「輪切り現象」を当然の結果として生みだした。モノサシのある目盛りの部分だけの生徒が、ある大学なり高校に集中する現象だ。つまり「似た者同志」だけが集団になるわけである。多彩な才能・人間が混然と集まるのではなく、そうでなくとも似た者同志といわれる日本的社会において、さらに徹底して、「より同一の人間ばかり」が集まる視野の狭い世界になる。これは恐るべき管理化社会、つまり、管理しやすい人間をつくるのに適した教育環境である。

もし多様な人間や多様な考え方が周囲の身近なところにあれば、人間とは多様なものだということをハダで感じることができる。少しばかり変わった者がいても、それもまた同じ仲間の一人だということを具体的に知りながら育つことができる。

だが輪切り現象によって少しでも違ったものを排除した世界に育つと、違ったものは仲間ではなくなってしまう。姿にせよ考え方にせよ違った人間がいるということを感じとることができない。輪切り現象によって、そうした同じ人間ではない人々は増える一方になった。

同じ人間ではないということは、別の生きもの、たとえば昆虫やハチュウ類とかを見る目と同じ感覚となることだ。そうなれば「歯止めなく」オモチャにして、いじめ殺しても良心の呵責など感じなくてすむ。

アメリカ兵がベトナム人を無差別虐殺するにさいして軍隊で教えられたことはベトナム人に対して「相手は人間ではない」と考えることであり「すべてはあの低級なベトナム人を絶滅し、排斥することを賞揚するため」の訓練であった。

人間の子供というのは親からの遺伝によって一生が決まるのではなく、生まれてからの育てかたと教育によって決まるのだ。「今の子供が悪い」とするのならば、それは現代の大人の作っている世界がわるいのであり教育が悪いのであろう。

いまの日本の子供のイジメはベトナムのアメリカ兵と同じ、〝教育〟の成果によるものではないのだろうか。少しでも「有名・名門学校」に子供を入れようとして輪切り現象は今や小学生にまで及んでいる。そして教育ママの弾圧によって、自分の意志とは無関係に受験勉強を強制され、やがて自分の属するランク以外は殺しても平気な〝エリート野蛮人〟に仕立てられていく、しかもそんな真の下等な人間が〝管理する側〟になっていく日本。

人類の未来はなさそうだが、その中でもとりわけ日本にはその感が強い。

文化展パートⅡが残したもの

華道同好会

十一月六日から十三日までの七日間、生徒会の主催による文化部だけの文化展パートⅡが行われました。

これは、運動部のように、試合などを通して成果をためすことの少ない文化部が、日頃どのような活動をしているか、またそれを展示することによって、どのような反応が得られるのかをためす、いわば、どちらかといえば、不活発になりがちな文化部の見直しをはかる目的で行われて来ました。しかし、この文化展パートⅡも今回で二度目。前回に比べかなり生徒及び生徒会共に意識が薄れ、存在や意義も疑わしいものになってきました。

展示は昇降口や、渡り廊下などで行われました。昇降口では華道同好会や、地歴部の夏休みの研修旅行の報告、そして宮本先生のインド研修の写真などが展示されました。しかし、狭い通路を二分して展示したため、あまり見ている人もなく、かえって通行の邪魔になったという声も聞こえたほど。その中にあって地歴部については、かなりの努力の跡が見られました。模造紙いっぱいにマジックでかかれた報告など、本当に活躍しているな、という感じを受けました。

パートⅡ開催中、毎日昼休みに中庭でフォークダンスが行われました。これもあまり評価を受けるべきものではありませんでした。参加者は、中庭でやると全校生徒の注目を集めてしまって、はずかしいという思いからか、毎回十人たらずでした。その内訳もひどいもので十人中七人は主催した生徒会役員で、真のフォークダンス参加者は三人のみでした。初日は、かなり窓から見ていた人も多かったのですが、次の日からは、何の反応もありませんでした。

このように問題点の多いパートⅡでしたが、バンドの演奏などの新しい試みで耳目を集めたものもありました。

こうして終了した文化展パートⅡは、生徒会執行部にとっては落胆するほどのものでしたが、しかし、来年六月の文化展に対しては意気盛ん。今日の経験をふまえて、全校の熱気を結集しようと名称変更も検討段階に入ったようです。それにこたえるべく各部の一層の取り組みを期待したいものです。

遠州灘

▽中学、高校の校則は年々規則強化が広がっている。それに併って「生徒と教師の関係」も冷めたものになっている……。

▽校則強化の中で頭髪に関する規則は特に厳しく、髪の毛の長さの規定はもちろん、天然パーマには「申告書、承諾書」の証明書を交付したり、さらには天然パーマかそうでないかを、なんと顕微鏡で検査をしている教師もいる、と新聞は報道している。

▽そんな中で「校則で丸刈りを強制するのは憲法十一条（基本的人権の享有）などの趣旨に反し、生徒の人格を侵害する」として生徒とその両親が学校長に対して慰謝料を求め法廷で争うという事件まで起こった。

▽頭髪検査をはたしてそこまでする必要があるのか・どうか。もし必要ならその理由をはっきりと納得のいくように教師は説明しなくてはならない。実際、理由がはっきりしないまま生徒たちは規則をおしつけられている。例えば我が校のある先生がしばしばこう言う、「他校の先生に〝何だ、南高の頭は！〟と言われて恥かしい」と。みなさん、この発言にどういう印象をもたれるでしょうか。他者からの評価のために我々は規制されているのか、という反感が頭をもたげてくるではありませんか。また従順に校則を守っている者にも失礼ではありませんか。〝点数かせぎ〟のために整髪しているなんて……。

▽近世の文芸評論家、石橋忍月の名言でこの「遠州灘」を終えよう。〝人間の生活をつなぐものは唯一の崇高潔美なる愛情なり〟

人と人との結びつきは打算の愛であってはいけないのである。

『受験生旅館・ホテル
ただ今受付中』

キミが立てたキミだけの受験スケジュール、順調ですか？受験当日がゴールなら、最後の詰めはその前日です。そこで、受験地での旅館・ホテルさがしがなにかとご心配なことと思います。〈日本旅行〉では受験校に応じ、その周辺の特にあたたかい家庭的な雰囲気の旅館・ホテルをたくさん用意いたしました。リラックスしてベストコンディション！1986年。合格宣言。

●お申込み・お問合せは

日本旅行　浜松営業所
〒430浜松市田町329の20
☎(0534) 54-4371
52年卒業　小幡利也

学校法人　河合塾

汝
自らを求めよ

妥協しなくてよかった!!

100万人を合格へ導いた実績

浜松事務所
〒430 浜松市田町324-3(住友生命ビル3F)
〈0534〉53-5581

常に新しい店

㊎ 谷島屋書店
YAJIMAYA

浜松市連尺町309-1　TEL53-9121(代表)
遠鉄名店ビル6階　TEL54-3131(大代)
松菱7階書籍部　TEL55-1111(大代)
鍛冶町・リブレモール　TEL53-1065
駅の谷島屋　TEL56-2544
浜団地支店　TEL25-7757
葵町店　TEL37-3211
浜松医科大学売店　TEL33-7837
駅南店　TEL65-2577
なかざわ店　TEL74-9710

初秋の古都・大和路を訪ねて

衣更した研修旅行成功裡に終わる

九月十八日、秋晴れの空に見守られながら、我々二年生は近畿地方京都・奈良への三泊四日の旅行に出発した。今年は〝研修旅行〟そのものの意味は変わらないにしても、行き先、研修内容など、大幅に変更された。旅に出る前の準備期間は、一学期の初めからゆうに二、三カ月はあった。この旅行は、中学生時代とは異なり、自ら考え、自ら設定したコースを歩きながら見たり聞いたりするもの、レールを敷くのにも、自分達が、自分達でという独立自尊を旨とするものである。

生徒は、A班とB班に別れ、それぞれ第一日目の見学地となる奈良、京都の地へ向かった。新幹線から見える風景は、鮮明で、次々とスムースに流れていった。それは、あたかも新幹線が止まっていて、外の風景が動いているようにも見えた。あっという間に名古屋を通過する。時間の経過を感じぬまま、我々は京都に到着した。駅は旅行者でいっぱいだった。肩からカメラとバックをさげたお決まりのスタイルで歩いていた。旅行者のためだけにある駅と言っても過言ではない程に。その中でも、特に外人が多いのが目についた。青い瞳、白い肌をした人々。日頃会う機会が少ないためか、見ぬふりで素通りはできなかった。中には、興味本位にかられ、彼らと得意のワンワード・イングリッシュで会話する者もいて、行く先々が楽しみな旅になることを、裏づけているようだった。駅からは、宿に着くまで自由行動となった。数名ずつにふりわけられた各班各自で研修に入る。街は、秋口とは思えない程むし熱かった。自転車に股がって、風を切りながらの者はともかく、陽の光を体中に浴びながら、なおムッとした街の中での徒歩の研修は、かなり体にダメージを与えるものだった。駅を出るとすぐ汗だくになり、額や首筋のあたりの汗を絶えずタオルでぬぐう。もうただひたすら歩く、という感じだ。駅から少し東に向かい、東大路に沿って北に上っていくと、以前に来た者が三十三間堂、その北に国立博物館が、広く敷地を構えていた。道路区画そのものは、平安京ができた中世以来の形態をとどめている。腹をすかせて入ったお好み焼き屋の人は、京都なまりで周辺のことを細部にわたって聞かせてくれた。話から、長年培われてきた京都の歴史を垣間見たような気がした。夜になると宿の付近での外出が許され、各自思い思い土産を買った。昼間の疲れなど気にも掛からなかった。消燈時間は、勿論そっちのけ。真夜中まで友人同志の思い出づくりに語らう声が大きかった。

二日目、あいにくの曇り空になり、予定の登山はとりやめた。B班は、大阪城にバスで向かうことになり、ため息をつく者もいた。天気は次第に回復したので、大阪城に着いた頃には、むし暑いほどだった。登山が中止になって、逆に皆喜んでいただけに、天守閣を空に仰ぎ見た時は、感激もひと潮だったろう。歴史上、一度は天下人となった秀吉の力が、その雄大さに十分示唆されていた。最上階は高かった。大阪のあらゆる町という町が一望できて、快い風に絶えず吹かれていた。その後、バスで一時間程ゆられてEXPOランドに到着。象徴的な〝太陽の塔〟に、目をひきつけられた。遊園地では、かなりはめを外して、乗り物に乗りまくった。心臓が縮み上がってしまった。今思うと、二日のノルマを残して、十分すぎる程気分転換されたと思う。

平安神宮

三日目は、京都から奈良への移動もあってか、電車に乗っている時間が異常に多かった。折角の研修の印象が薄れたような気さえした。奈良は、京都とちがってあまり華やかさを感じなかったが、古風な中に上品な雰囲気が漂っていた。街もあまり大きくない。京都のざわめきから急変した。夜は近くに露店が長く並んだ。昼に固く閉ざされていた店先には、名物が丁重に置かれていた。駅前のアーケード街に足を運ぶ者も多く、最後の夜ということもあってか、片っぱしから土産屋に入りびたった。就寝時間は、相変わらず真夜中だったが、三日目ともなると、中には早く寝る者もいた。

四日目の朝、吉田屋旅館を出発した。疲れ気味で睡魔に襲われながらの研修だったが、何とか大和八木駅に集合して、帰途についた。疲れがどっと出て、新幹線の中では殆んど眠りこけていた。

京都・奈良は、それぞれ古都としての風格を十分に備えていた。今度の旅行で　また自分の中の京都・奈良が少しずつ変わったような気がする。しかし、それを語るには、四日間の研修成果のみでは到底足りない。まだまだ知らないことが多すぎるからだ。しかし、人間が一生かけたところで、知りつくすことは土台無理だろう。

古都、京都・奈良は、日本人の心に様々な像を守り、見た者は自分なりの京都・奈良を持ち続けていく。そして訪れる度、また何かを発見できる。この事実は、千年以上の歴史を持つ古都の証であり、これからも歴史は創られていく。この旅で、その歴史をこれからも守り続ける責任が自分達にあることを痛感させられた。

（加藤）

日本の英語はむづかしい

—浜南日米友好進行中—

ネイト君に聞く

—日本文化異聞—

まずは左の英文を見てもらいたい。これは、ネイト君自身に書いてもらった簡単な自己紹介である。これを見てもらえば、彼を取り巻いていた環境は一目儼然であるが、まだまだこれだけでは、彼についてわからないことがたくさんある。

そこで私達は、同じ年代の「異国人」としての生の声、考え方、生き方を理解できる絶好のチャンスを逃がさないためにも、彼にインタビューをなげかけたのである。なおそこから、独断と偏見になるが、彼を一人の「アメリカ人代表」と見て、日本人とアメリカ人との現代の考え方の相違を、数多いインタビューの中から追求し、この根底にある精神をかいま見ようとしたわけである。

My name is Nathan Church, but in Japan, it is now "Neito" or "ネイト". I come from Dearborn, Michigan, U.S.A.. Dearborn was the hometown of Henry Ford, the "founder" of the automobile industry. The Ford World Headquarters and its largest factory are located in Dearborn. My city is much like Hamamatsu, but its population is only 99,000, so it is not as crowded. Life in America is quite different than here; nevertheless, I have found another home in Japan.

〔ネイト君への質問・応答〕

1、来日する前、あなたは日本に対してどのようなイメージを抱いていましたか。

——日本からの交換留学生が来ていたから、日本についての知識はある程度持っていたけれども、やはりイメージとしてわくものは、日本人が『エコノミック・アニマル』であるということでした。

2、そのイメージは、来日後、どう変わりましたか。

——思っていたほど、日本人が『エコノミック・アニマル』ではないことがわかりました。

3、学校生活で不思議に思ったことは何ですか。

——そうじを生徒達自身でやっていること、それから皆が同じ服（学生服）を着ていることです。

4、始業、終業の礼についてどう思いますか。

——アメリカではそれはやりませんが、いつ始まり終わるかよくわかり、とても良いと思います。

5、日本の英語の授業についての印象はどうですか。

——アメリカの授業では文を書くことを中心にやっていたんですが、日本では、読んで訳すことに重点をおいているようです。それから思っていたより日本の授業は難しい気がします。

6、体育の授業については、どのように思いましたか。

——体操服を着るのには驚きました。また、外でやるととても寒いです。（笑）

7、書道をやってみての感想は

——人の書いたのはきれいだと思いますが、自分ではやはりうまく書けません。

8、現在、興味のある授業は何ですか。

——英語と体育と書道の授業しかでていないからわかりませんが、その中では体育に興味があります。

9、これまでに、体育祭、水泳大会、砂の芸術、演劇鑑賞などの学校行事を経験したと思いますが、これら学校行事はアメリカの学校にはあったのですか。

——いいえ、ありませんでした。

10、では、これらの学校行事をどのように思いましたか。

——アメリカの学校では、個人単位で行事を行なうことはあっても、学校単位でやることはないので、とてもうらやましいです。

11、砂の芸術に参加してみての感想は

——21HRが優勝したからとてもうれしかったです。

12、演劇観賞の印象は

——言葉がわかればもっと面白かったと思いますが。

13、修学旅行の行き先の京都、奈良については、アメリカにいた時知っていましたか。

——奈良については知らなかったけれども、家の近くに『京都』というステーキハウスがあったから、名前だけは知っていました。（笑）

14、京都、奈良の神社、仏閣の印象はどうでしたか。

——大きく迫力があり、とても印象的でした。

15、日本の家について、何か感じることがありますか。

——とても寒いです。なぜならば、アメリカの家にはセントラルヒーティングがあったからです。

16、日本の伝統的な食べ物、特に、梅干、納豆、刺身などは食べることができますか。

——はい、だいたい食べられます。

17、家庭生活で、どのような余暇の過ごし方をしていますか。

——手紙を書いたり、ジョギングをしたり、テレビで映画を見たり、オセロをやったりしています。

18、最後に、南高生に対して、どのような印象を持っていますか。

——たいへん友好的だと思います。

大阪城

研修旅行の思い出

国語科　宮崎　清

本年度から本校の長い伝統であった研修旅行が、八割ほど斬新的な方向へ内容が大きく変った旅行になったことは、生徒諸君の長年の憧憬であったことは言うまでもない。

今度の旅行は、何一つの問題もなく、出発から帰浜までの四日間は思いの外の効果をもたらせた。ひとえに先生方の事前指導と生徒諸君の長期的な方針準備によるものと思う。

京都二泊、奈良一泊という平凡な旅行日程であったが、三年前（中学三年）の修学旅行を、さらに充実させた旅であった。

嵐山の景勝を目の前にして、大堰川の清流のせせらぎを聞きつつ、私はいつの間にか若き日の嵐山のことを回顧した。三十余年前とその景勝は今なお一つとして、変化していなかった自然の雄大さと人生の転変を対比していた。

ホテル嵐山の裏には、かの有名な小督局の塚があった。高倉帝の寵姫として琴の名手であった彼女は、清盛の前からその身をこの嵯峨野の一隅に隠棲していたことは、平家物語の悲劇の女性の一人として有名な一文となっている。

祇王寺・滝口寺・野宮神社・天竜寺の名園を観た。生徒諸君も多数の洛中の名勝地、名刹などを一つ一つグループ研修として、ゆっくりとその美に耽った記憶は、ただ単なる思い出とは異なって青春の良きアルバムの一ページを飾ったことと思う。

私は大徳寺境内にある千利休の墓や茶室を観た。

数年前からこの聚光院へ行きたかった。三時間近くこの寺院を観たことが、とても嬉しかった。その北隅にある懐石料理もやはり、生まれて初めての経験であった。四季を通じて古都奈良・京都の旅は、いつ来てもよい。奈良では、長谷寺や室生寺へもう一度行ってみたかったが、その時間がなかった。

生徒諸君の詳細な計画と見学場所などを一班ごとにチェックして行ったことも、むだのない研修をもたらしたことの一つであろう。

九月半ばに実施されたこの旅行は、時期的には十月中旬の方がよいと思った。残暑が厳しいので、グループ研修は疲労が強いのではなかろうか。ぜひ、一考を乞う次第である。

奈良の猿沢湖畔の宿から、一人で早朝の東大寺境内を歩いた。人慣れした鹿の群れも、のどかに思えた。学校を離れての校外生活を通しての生きた研修旅行の今後の発展を祈ってやまない。

研修旅行アンケート結果

○1. 全体的な成果

イ、あった	ロ、まあまあ	ハ、なかった
33%	64%	3%

○2. どんな成果か

イ、見聞をひろめた	ロ、人間関係	ハ、[illegible]
52%	37%	11%

○3. 目的が達成できたか

イ、達成できた	ロ、まあまあ	ハ、出来なかった
22%	74%	

○4. グループのまとまり

イ、まとまっていた	ロ、あまりまとまっていない
86%	14%

○5. グループ構成

イ、よかった	ロ、まあまあ	ハ、悪い
63%	29%	8%

○6. 班長の連絡伝達

イ、よくされていた	ロ、あまりされなかった
87%	13%

7. 費用について（研修費除く、土産含む）

イ、1万円以下	ロ、1～20,000円	ハ、20,000～30,000円	ニ、30,000 40,000円	ホ、4万円以上
4%	23%	52%	19%	2%

○8. いくらかかったか

イ、[illegible]円以下	ロ、5,000～10,000円	ハ、10,000～15,000円	ニ、15,000～20,000円	ホ、2万円以上
1%	25%	38%	26%	[illegible]

9. グループ研修ではいくら使いましたか。（4日間合計、昼食含む）

イ、5,000円以下	ロ、5,000～10,000円	ハ、10,000～15,000円	ニ、15,000～20,000円
27%	62%	9%	2%

○10. クラスの雰囲気（旅行前と比べて）

イ、よくなった	ロ、悪くなった	ハ、変わらない
20%	5%	75%

購買委員会

※購買情報

常用品	値段	鉛筆 MONO	60	クリアブック（A4）	260
ブラウス（長袖）	2,000	蛍光ペン	70	〃　（B5）	240
ブラウス（半袖）	2,000	蛍光ペンセット	240	〃　（A4）	320
校章　ねじ／ピン	190	チェックペンセット	300	〃　（B5）	300
はちまき	100	消しゴム	40	フラットファイル（A4）	60
リボン	110	線ひき	50	〃　（B5）	55
スリッパ	550	ボールペン	50	レバーファイル（A4）	260
カラー	70	英習帳	90	〃　（B5）	250
ボタン男子（大）	30	単語帳	90	キャンパスツイン T110	130
〃　（小）	25	レポート用紙	90	キャンパスツイン T250	200
ボタン女子（大）	30	メモ帳（B5）	90	のり	120
文具	値段	ルーズリーフ	160	セロテープ	50
シャープペンシル	80	ルーズノート	500	タイプ用紙	650
シャープの芯（16本入）	80	ノート 30 A／B	80	付箋紙	100
〃　（40本）	160	〃　50 A／B	140	その他	値段
鉛筆 T−8900	25	方眼紙	100	絵の具	100

※ご協力ありがとうございました。購買では上の商品を売り出します。
希望の中には、パン・ジュース類も多かったのですが、購買では扱えません。
ひとまず文具を主に仕入れました。まだ不足のものもあると思います。
どの商品が好評であるかみて、これからも仕入ますが、希望する商品がまたあったら購買室の意見箱にどうぞ。（購買についての意見もあったらお願いします。）

営業時間は月～金の13：00～13：15です。11/20から開きます。

部員募集　地歴部

部員募集
写真部

合格へ、冬の特訓!!
'85冬期ゼミナール
■期間　12月25日～1月7日（1/1,2休講）■対象　高卒・高3・高2・高1
オール単科講座設定
12/24まで受付
■問合せ　☎0534(56)1791（代表）
公認　東海学院予備校

贈りものに
全国共通図書券
教科書・新刊書籍・雑誌
参考書・各専門図書・地図
文泉堂書店
〒430 浜松市連尺町314−1　TEL54−6358代表

262

To see is to believe

制服・掃除・礼……ただもうビックリ

すっかり制服姿がさまになったネイト君

「百聞は一見に如ず」

私達はまず最初に来日前の日本についてのイメージと、来日後のそのイメージの変化について尋ねた。

これは、日本についての知識が少なく、日本語もほとんど話せなかった三ケ月前と、多くの日本人と接し、またカタコトではあるが、日本語を話せるようになった現在との、日本に対しての考え方の違いが最も端的に表れる質問ではないかと確信したからである。

なお私達は、この質問に対しての返事について、ある二つの憶測と不安感を抱いていた。

高度情報化社会の現代では、世界各地で起こった事件やトピックスが矢のように伝えられ、また映像として写し出される。もちろんアメリカや日本も例外でなく、その分野では世界のリード役となっている感が強い。

しかし、ここでふと頭をよぎるのは、ときどき新聞やテレビをにぎわす、アメリカ人の日本についての意識調査である。それらを見た時、欧米人の日本、日本人論が「フジヤマ」、「ゲイシャ」に対する好奇心から出発しているのではないかと考えさせられる時があるのだ。

それからもう一度、ネイト君の自己紹介を見てもらいたい。彼の出身地は、「自動車王」、ヘンリー・フォードの出身地でもある。

現在のアメリカと日本との一連の貿易関係を考えてもらえばわかる通り、日本製品の海外進出には目覚ましいものがある。特に自動車産業界では、日本車が、「安い」、「燃費が安い」、「性能が良い」など、今までのアメリカ車になかった特徴を表現することによって、現在の地位を築いたことは、今更言うまでもないことであろう。

これは、車によって産声を発し、車と共に発展をとげたアメリカにとって、たいへんな屈辱であったに違いない。それに加えて、彼の育った土地から、日本に対するイメージが、批判的傾向を持っているのではないかと考えたのである。

このように考えた、その質問に対しての返事は左に書いてある通りである。

彼がその返事をどのように受けとめて発した言葉かは定かではないが、この言葉をつけられるほど、日本人の生活が労働中心に動いていたことは否めない事実である。

戦後の日本は、どの先進国にもみられなかった、終身雇用制年功序列制などの諸制度、また会社帰属心の強さなどを背景として、頭の中はGNPだけに気をとられ、先進国に追いつけ追いこせをモットーに働き続け、それが先進国の人々に、「彼ら（日本人）はいつも働いている」といった印象を与えてしまった。

このことは、私達にとって、彼らに対して嫌悪感を抱くもとになりうるべきはずなのに、そのような感じようも、安堵感を持たらしたのである。

その考えの一つに、彼の、来日後のイメージの変化についての返事のこともあるだろう。だがそれ以上にまた大きな理由があるのだ。それは、前にも少し触れたように、日本のイメージを「フジヤマ」、「ゲイシャ」などのような空想的発想から浮かび上がらせてはいなかったからである。

チョンマゲをゆいながら、自動車を操るといった矛盾した考えを持つことは、ことアメリカに関しては、完全に過ぎ去ってしまったのかもしれない。

▼ネイト君が我が校にきて最も驚いたこと、不思議に思ったこと—それは日本人にとって極当たり前のことにして受けとめられていたものばかりであった。もちろんそれは二国間の日常の生活習慣の違いからくるものであろう。▼第一として掃除である。日本の学校では例外のない限り掃除は生徒がする。しかし、ネイト君にとってはこれが驚いたことの一つであるという。小学校以来、自分たちの使った所の掃除は自分達でするのだと教育されてきた私達にとって彼の言ったことが不思議に思われる。こうしたくい違いはどこからくるのだろうか。▼第二に制服である。これはインタビューする前からだいたい予想できることであった。

アメリカには制服（学生服）はない。そのため私服を着て登校する彼らにとっては着ていくものについて毎日悩むことはいうまでもない。ネイト君にとって初めて着る学生服はどのようにみえただろうか。

現在日本では欧米を見習う意味からか制服を使わない学校が増えている。しかし、アメリカ人であるネイト君が日本の「制服」について良い印象をもってくれたことは、単にものめずらしさからというわけでもなかろう。掃除にしても、制服にしても日本の学校の制度とアメリカの学校の制度では全体の秩序、統制を重んずるか、個人を重要視するか、その立脚のちがいにあるのであろう。▼ネイト君が我が校に来て現在（十二月一日）三ケ月の月日が流れた。この間、水泳大会、研修旅行、体育大会、マラソン大会などの学校行事を中心に一般の授業にも英語、書道、体育で21HRとともに参加している。そこで授業を中心に学校生活について聞いてみた。

ネイト君にとってまず授業をうけると一番初めに感じることそれはおそらく始業時、終業時の礼であろう。彼によるとアメリカにはそのようなものはなく、生徒は授業の始業時でも座ったままだという。めんどうに思われることもあるが、あいさつは、意を尽くす、礼を尽くすことを尊ぶ日本人的精神風土にピッタリなもののように思われる。しかし、毎回本来の意味を頭において行われているものばかりではない。ただ形式的なものに終わっているようにもみえるこのあいさつをネイト君はどう受けとめているであろうか。

彼は次のような理由からか前記の通りこの行為をよいものと判断した。日本語を上手に話せない彼にとって授業の終始はハッキリしない。そのためクラス全員が立って礼することで「今から授業が始まるんだな。」「今、授業が終ったんだな。」と理解しやすくしているというのだ。日本に来て三ケ月の彼にとって本当の意味を知るためにはもう少し、日本の文化にとけ込む時間が必要であろう。そして、もしネイト君がこの礼を「日本の礼儀」というものだとわかったとしても、それがなんのために行なわれるかは理解し得ないだろう。日本人の「礼儀重視主義」は外国人にとっては理解しづらい、むつかしい問題であるにちがいない。▼ネイト君が日本の英語教育をどのようにみたか。この部分が今回のインタビューで最も興味深い所であった。ここで中学の時、英語の先生から聞いたことを書いてみたいと思う。—日本で教える英語は読み、書き中心型で実際に必要な話すこと、聞くことができていない—このことは確かなことかもしれない。日本人自身が批判する日本的英語教育にネイト君はどのような感想をもっただろうか。ネイト君の回答は先に示した通りである。ただ一つつけ加えるならば、読み書き、文法はなかなかのもので、二学年のIIBの教科書は結構むずかしい、とその場所をさし示しながら語ってくれた。

ネイト君のいる21HRの英語の授業で時折、言い廻し等で日本式英語とアメリカ式英語の間でくいちがいを起こす。それはやはり通じない英語を受験のためだけに勉強させている日本英語教育の失敗ではないか。

日本の英語教育は確かに〝書く〟英語中心である。そのために中学、高校と英語を勉強してきても自分の思うことも外国人と話すことができない。人間は話さなければ、コミュニケーションをもてない。日本が世界の大国に仲間入りしようとしている今、ぜひとも〝話す〟英語をも加味するよう現在の教育方法を再検討してもらいたいものだ。▼書道の授業をどう思っているか。この質問に対してネイト君は「自分はなかなかうまく書けない。みんなはうまい。自分もうまく書きたい。」と答えてくれた。このように彼は日本の文化に一つずつ溶け込もうと努力しているのがよくわかる。▼ここで日本の授業の中で一番興味深いものは という質問に体育という解答をしてくれたことは体育大会、水泳大会、マラソン大会で大活躍をしている通り運動の得意な彼にとって当然なことかもしれない。ところで体育大会、水泳大会、マラソン大会というようなものはあったのかという質問に少人数で行なうことはあっても学校ですることはなかったと答えてくれた。そして、さ[illegible]にとっても良いことであるとつけ加えてくれた。▼去る九月十八日、ネイト君は二年生とともに研修旅行に出掛けた。目的地は京都、奈良。外国人が日本文化を知るためにはもってこいの場所である。ところでネイト君は京都、又は奈良をどの程度理解していただろうか。これは私達日本人が外国人に対して思うことであるが、外国人が「日本」と聞いた時一番初めに連想するであろう京都、奈良がネイト君には知識としてなかったのだそうだ。「京都」という名称だけは彼が住んでいた所の近くに「京都」という日本料理屋があったということで知っていたそうだが、その他のことは何も知らなかったらしい。その彼がこの旅行に参加してどのようなことを感じただろうか。京都、奈良といえばやはり多くの寺を思い浮べる。アメリカにはない寺に対してネイト君はどのように思っただろうか。彼は大きいのが印象的だったと答えてくれた。また、大阪城に対しては豪華で高く、立派だったと述べてくれた。寺、城を初めて見た彼がそれらに対して良い印象をつけてくれたことは私達日本人にとってとてもうれしいことである。しかし、彼の口から出た感想が少なかったことは彼にとってそれらを理解するのが難しすぎたとも考えられる。そのためか話の内容は自然と言葉でのことへ移っていった。▼先日行なわれた「演劇鑑賞会」について聞いてみた。

彼の感想は

「ユーモアがわかると良かったのになあ。」

ということだった。やはり言語の問題は人間の結び付きにへだたりをつくる。今、ネイト君にとって一番の問題は、言葉の障害を乗り越えることであると思う。彼は私達との会話の中で少しずつではあるが日本語の単語を話すようになった。それと同時に私たちとの話も以前よりも深く、楽しい話になってきている。彼の日本への理解のための努力に報いるよう、私達、生徒会員が気軽に彼に接してゆくことを願わずにはいられない。

それでは、それら、いくつかの質問とそれに対しての彼の応答が私達になげかけたものは、一体何であったのだろうか。

彼はこの異国の地、日本に来て、多くのことに驚きを示した。それは、彼の応答のあちこちからうかがうことができるであろう。しかし、それら一つ一つを取ってみても、私達にとっては何の疑問も持たず、当然のことのように思っていることばかりである。

特に日本の場合、四方を海に囲まれた島国であったこと、また民族、言葉、国民性などがことごとく一致する特異な人間集団であったことなどから、知らぬまに鎖国の状態に陥り、物事の習慣化が他国より進んでしまった。

そこで、今一度考えねばならぬことは、何の疑問も持たずにいた日本の文化を、外から眺めそれを客観的に評価しようとする心を持つことではなかろうか。

それが、他国との矛盾を取り去り、また日本の文化についての意識をも高めることになろうから。

WELCOME TO MINAMI

—— 新任講師紹介 ——

病気療養中の社会科の山本先生、身体の不調を訴えていらっしゃった音楽の田代先生に代わって新しく二人の講師の先生が赴任されました。おふた方とも教師になられたばかりでやる気に満ちあふれています。そこで新聞部では早速先生をお訪ねして以下の質問にお答えいただきました。

①担当教科
②出身校
③南高の印象
④生年月日
⑤趣味
⑥先生が描く理想的な生徒像
⑦自己PR
⑧教師になった感想

高岡英俊先生（たかおか ひでとし）

①社会
②中央大学
③大人しい
④昭和三十六年六月六日
⑤旅行、ゲーム性のあるスポーツ（観戦）
⑥夢、目的を持続していく事のできる人。
⑦健康に注意して、頑張ります。
⑧南高のみんなと一緒に勉強していくことができ、大変嬉しいです。

井浪千草先生（いなみ ちぐさ）

①音楽
②武蔵野音楽大学
③トイレの下駄が特に印象的でした。比較的おとなしい生徒が多いようですね。他の高校から隔離されていて少しかわいそうな気もします。
④昭和37年7月22日
⑤特にないけれど、車に乗って（助手席）まっすぐに走ることが好きです。
⑥教える立場としては、真面目に授業を受ける生徒。多くの事に感動する心を持ちそれを自分なりに表現できる人が好きです。
⑦早く顔を覚えて欲しいですね。
⑧50分が短かく感じます。私が学生の頃とそれ程違いがないからやり易いですね。

◇　◇

田代先生の演奏会があります。
オペラ、ヘンゼルとグレーテル
浜松市勤労会館
一五〇〇円
12月24日（火）18時30分
25日（水）14時
18時30分

是非行ってあげて下さい。チケットは私のところにあります。

宮本先生

ヒマラヤに挑戦！

静岡県高体連登山部は創立三十周年記念として、インドヒマラヤへの遠征を企画した。目的地はインド北西部の乾燥地帯、中国との国境付近にあるザンスカール山脈、ストック山群、カングラチャ（六一五〇米）及びシュクカンリ（五七九〇米）である。主として各高等学校の顧問からなる十四名によって編成された登山隊は、一年余りの準備の後、七月二十八日から八月二十四日までの二十九日間の遠征をおこなった。以下の文章は私のカングラチャ登頂の記録である。

八月十一日。十三時、第一次登頂隊五名が発表される。二日前にようやく体調が元に戻った私は、第一次隊に入ることはないだろうと、午前中のんびりと山羊や羊を見て過ごした。それが突然の第一次隊入りになり、いそいで山入りの準備を始める。十五時、皆に見送られながら山への尾根道をたどる。十七時二十分、氷河の端のモレーン上にある、五千二百米地点の所に到着する。頂上まであと千米、見上げるカングラチャの雪は前に見た時よりも少なくなっていた。夕闇の中で食事の用意と装備の点検を始める。夕食はボンカレー、パック入りのご飯、スープココア、リンゴである。二十時消燈。なかなか寝つかれない。夜中、雪崩れる音であろうか、二度激しい音がする。様々のことが頭の中をよぎる。

八月十二日。うとうとしかけた一時三十分起床となる。すぐ朝食の準備をする。沸点が低いためインスタントラーメンがなかなか煮えない。そのラーメンと干しもち、クッキー、ココアで朝食をとる。デポする荷物と持っていく荷物に分け、四時二十分ヘッドランプをつけて出発する。ほの白い氷河の上を慎重に進む。下を流れている水の音が聞こえる。途中から氷河が雪にかわり、雪面を登る。六時三十分頃から朝日が射し始める。サングラスをかけ、お互いの唇や顔にひどく厚く日焼けどめクリームを塗りあう。「きれいに塗ってくれよ。」「役者のように見えるだろうか。」「ピエロには見えるかも知れないね。」こんなたわいのない話をしながら、又登り始める。薄い酸素に活動が制限され、十分から十五分毎に休みを入れる。十時過ぎ、インドの真夏の太陽に照らされている斜面の雪がくさり始める。最初は足が少し入る程度だったのがついには力を入れる度に膝から太ももまで入る状態になる。所々に出ている岩をたよりに、そこまで行ったら休もうとそればかりを考えながら、ゆっくりゆっくり登る。それでも雪との格闘は人を激しく疲れさせ、ピッケルに全身を預けてあえぐ。酸素の少なさに一瞬のどを締めつけられたような苦しさが訪れる。ただ上へ上へという意志につき動かされて登る。十一時十五分頃、突然というようなかたちで上の視界が切れ、ほとんど頂上に近い地点まで来ているのに気がつく。相棒と皆の来るのを待つ。この上が頂上なのか、もう登らなくてもよいという安堵感とこれならばまだ登れるなという思いがわく。ベースキャンプに着くまで私には特別な感情はおこってこなかった。これが六千米の高度なのか、私は冷静に周囲の山々を眺めた。八月十二日、インド時間の十一時四十三分四十五秒、カングラチャに登頂する。

高度6千米のベースキャンプ

入部大歓迎

◆活動日　月・水・金
◆活動時間　PM3：40～4：00
◆次号（第75号）は3月発行
◆入部希望者は磯部先生まで
新聞編集室（北館1階購売隣）

新聞部

体育大会に新風を!!

迫力欠く グランド・応援席

去る10月9日、昭和60年度校内体育大会が行われた。徒競走、リレー、組体操など毎年恒例の種目で無難にまとめられ、まずは成功といえる体育大会であった。しかしその反面、例年通り、今ひとつ盛り上がりに欠けていた、ということも指摘できる。その原因となるものは、いったいどこに存在するのであろうか。

体育大会が盛り上がりに欠ける、その最大の原因は、「近年の体育大会には、一部の生徒しか参加していない」ということにあろう。多くのクラスでは、生徒会の定める個人の出場可能種目数制限を破って、走りの得意な生徒に制限以上の種目数を走らせるなど、出場は運動能力の優れた者に限られているのである。だが、制限を守らないこと自体が盛り上がりに欠ける原因なのではない。競技に出場しない残りの生徒たちが、一生懸命に応援をしているのならば、彼らは立派に体育大会に参加しているといえる。しかし、応援席を見れば、彼らのほとんどは競技を参観せずに私語にうつつをぬかしている有様だ。これでは大会が盛り上がるはずもない。

また、「競技にオリジナル性がない」ということも原因の一つであろう。ほとんど毎年同一の種目を行う、それも他の学校と類似したものであれば、面白みが薄れて当然。生徒会でオリジナルの種目案を募集するなどして、南高独特の競技を実現させたいものである。

さらに、学校側にも原因はあるはず。率直に言って、「学校側の規制は厳しすぎる」のである。生徒のためによかれ、と判断した上での規制が、逆に生徒の「やる気」を失わせている面もあるのではないか。

このように、体育大会が盛り上がらないことには様々な原因を指摘することができる。よりよい体育大会の実現のためには、生徒も教師も真剣にこれらの問題について考えてみる必要があろう。

さて、例年通り盛り上がりに欠けた今年の体育大会で、唯一皆の熱い視線を集めたのは、交換留学生「ネイト君」の力走であった。一五〇〇メートル走でダントツでゴールした彼の勇姿は、「強いアメリカ」の姿、そのものであった。彼の懸命に全力で走行するその態度に、我々は学ぶべき多くのものがあるのではないだろうか。

南高の伝統・棒倒し

体育大会入場式

体育大会結果
優勝――34HR
準優勝――31HR

燃える闘魂受け継がれる

―運動部総捲―

テニス部、バレー部の出場したインターハイの全国大会はチームの団結、個人の努力が燃える浜南魂を発揮し、静岡県代表として素晴らしい試合を展開し終了した。

若さとファイトで南校の歴史を刻んでいく部活動も三年生が引退し、一、二年生にバトンが渡された。新人戦、その他の試合においても各部が大健闘し、今後の活躍が大いに期待される。以下はインターハイ全国大会と各部の新人戦の結果、サッカー部のサッカー選手権、静岡県大会の結果である。

全国大会結果

〈テニス部男子〉
―シングルス―　（一回戦）
太田雅士　2―6　森下
（武蔵工大付）
―ダブルス―　（一回戦）
太田雅士組6―7　昆野組
原口明伸　白寄
（本校）　（立教）

〈バレー部〉
―予選グループ戦―
浜松南　2―0　米子北
―決勝トーナメント―
浜松南　0―2　都城工

新人戦結果

〈陸上〉（県大会準決勝出場）
400M　尾藤　敬　51秒2

〈男子ハンドボール〉
リーグ戦　29―12　気賀
8―26　湖東
42―2　天竜林業
18―8　二俣
14―27　城北工業
（西部3位）

〈女子ハンドボール〉
一回戦　7―7　気賀
二回戦　16―7　二俣
（西部優勝）

〈男子ソフトボール〉
一回戦　3―0　東海大一
二回戦　0―7　沼津学園

〈女子ソフトボール〉
一回戦　7―17　袋井商業
敗者復活戦　（ベスト8）
一回戦　8―7　菊川
二回戦　14―3　気賀
三回戦　0―8　磐田東

〈剣道男子〉
一回戦　3―2　浜北西
二回戦　0―5　横須賀

〈剣道女子〉
一回戦　1―4　磐田南

〈男子テニス〉（県大会）
―シングルス―
杉山雄司、根本重人、加藤元一
（ベスト16）
―ダブルス―
加藤・杉山組　根本・関口組
（ベスト16）

〈女子テニス〉（県大会）
―シングルス―　第一回戦
中村信子　4―6　佐藤紀美江
（本校）　（日大三島）
―ダブルス―　第二回戦
中村・深津　4―6　山梨　村松
（本校）　（焼津）

〈男子バスケット〉（西部大会）
一回戦　68―69　掛川工

〈女子バスケット〉（県大会）
一回戦　82―31　吉原商
二回戦　70―42　藤枝南
三回戦　78―38　信愛
準決勝　69―46　松崎
決勝　44―57　沼津市立

〈男子・女子バレー〉
新人戦は一月以降

〈卓球男子〉（県大会）
一回戦　1―3　東海大工業

〈卓球女子〉（西部大会）
個人戦　堤育美（三回戦出場）

〈水泳〉（県新人）
百mバタ加藤文秀（1分3秒96）
百m自由　市川昌宏（59秒21）
二百背泳桧垣育正（2分28秒15）

〈サッカー部〉（県大会）
第64回全国高校サッカー選手権
一回戦　3―0　稲取
二回戦　8―1　沼津商
三回戦　0―1　東海大一

サッカー部の面々

〈サッカー部観戦記〉

リーグ戦に進出する16校を決定する三回戦が九月二十二日に行われ本校は東海一に惜しくも1―0で敗れた。本校サッカー部の目標であったリーグ戦進出は成らなかったが攻守のバランスがとれ、県下ナンバーワンの陣容を持つと言われる東海一を相手に、白熱した好試合が展開されグランドを取り囲んだ観衆の胸を打つ、あるいは堪能させるに十分な内容であった。

ボールの支配率は6対4で東海一に分があったが、本校は前線からの激しいチェックと相手FWに仕事をさせないDF陣の密着マークが効を奏し、また、GK内田（二年）の判断も速く得点を許さない。

攻撃ではMF山嶋（二年）高橋（一年）のスピードあるテクニックが冴え渡り局面を次々と打開してゆく。後半27分に杉本に得点されたが前半38分の決定的なチャンスをものにできなかったこと、山田（二年）とツートップを組む鈴木秀（二年）が前日に捻挫をしほとんど動けなかったことが悔まれた。

試合後、増田先生にインタビューをお願いしたところ「東海一とはインハイ県大会二回戦で5対0と敗れ、この試合で私達は大きな失敗をし、貴重な勉強をさせてもらった。その経験を踏まえ、前日の夜のミーティングでは南校のよさは攻撃的な個人技にあるので、決して守備的にはならず、積極的に全員攻撃を仕掛けることを確認した。

選手の戦う気力の充実が、このようなゲームに結びついたと思う。本校サッカー部の躍進を期待すると共に、チーム作りに励んで去っていく三年生に大きな拍手を送りたい。

チャンスは一度

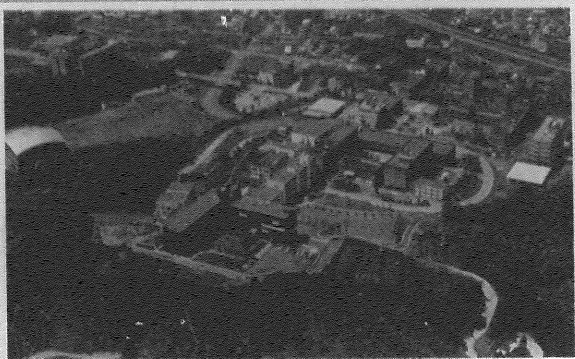
〈進路課・鳥羽　勤〉

来春行われる六十一年度大学入試の特徴は二つある。一つは受験者総数が九十三万人となり前年度より約十万人増加する。二つめは、五教科七科目による共通一次試験及び国公立大学一校受験制度が最後の年になる。即ち、六十三年度（つまり現二年生）から五教科五科目、複数受験制に移行する。受験者急増に備えて大学側が定員増するにしても焼け石に水である。従って例年をはるかに上まわる倍率が予想できる。又、六十二年度から実施される複数受験化を考えると、本年度で是が非でも入れる大学に入っておこうという心理がはたらき、下位ランクの大学の倍率まで上昇するであろうことが十分予想される。受験生にとっては厳しい環境と言わざるをえない。

しかし、統計上の数学や倍率がどうあれ、畢竟大学入試は個人個人の問題であり、各人が強い意志と力があれば克服できるものである。本校でも毎年多くの生徒が根気よくねばりぬいて難関を突破している。周到な計画と果敢にチャレンジする気迫が何よりも大切である。とは言いながら一方には毎年八十名以上の浪人が存在することも事実である。彼らもまた努力し、チャレンジした筈であるが結果は浪人である。何かが間違っている。以下その原因とおぼしきものを二つあげる。

一つは、名のある大学や大都市にある大学に集中することである。実に無理からぬことであるが、力が無ければ通らない。昔とちがって現在では大学は全国都々浦々にある。さらにどの大学も存亡をかけて施設、スタッフを充実させ、他の大学としのぎを削っている。受験生はつまらぬ偏見をすて、名よりも中味を吟味する賢明さがなくてはならない。二つめは、浪人を前提とした受験である。今年だめなら来年を期待する。一年勉強すればその分だけ成績が上ると思うのは当然である。しかしこれは幻想以外の何ものでもない。因に、卒業生の予備校での成績を見ると、高校時代とほとんど変りない。伸びていない、伸びないのである。つまり高校時三年の三学期のものが終生変らぬ自分の本当の力である。一浪しても二浪しても合格する確率が大きくならないこと知るべきである。天は一度しかチャンスを与えてくれないということを肝に銘じて、最後の最後まで努力に努力を重ねることを願うのみである。

本年度の大学進学希望者は国公立大学九十八名、私立大学百十四名、短期大学二十五名となっている。例年になく授業や補習に活気があり、根気もよい。生活もきりりとしたところがあり、ひたむきさも感じられる。この時期が一番苦しい時である。マラソンで言えば三十五キロ地点ということか。栄冠を目指し最後まで健斗することを期待する。


静岡大学

厳しさ増す就職戦線

〈進路課・鈴木真徳〉

商業科　60年10月20日　現在の状況（第1回目）本年度／昨年度

	応募数	合格数	未発表数	不合格者数
民間	153／102	134／89	1／2	18／11
公務員	2／2	0／0	2／2	0／0
縁故	2／6	1／3	1／3	0／0
自営	1／0	1／0	0／0	0／0
合計	158／110	136／92	4／7	18／11

※ 進学　20／24　第一回内定率。89％／89％

業種別受験数（学校就職者）　（ ）は、未発表

	受験数		合格数	
	本年度	昨年度	本年度	昨年度
建設・土木	1	0	1	0
製造	66	32	58	28
卸・小売	30	30	28（1）	27（2）
金融・保険	20	20	17	17
運輸・通信	6	2	5	2
電力・ガス	4	1	4	1
サービス	26	17	21	14
合計	153	102	134（1）	89（2）

職種別状況（学校就職者）

	受験数		合格数	
	本年度	昨年度	本年度	昨年度
事務	141	92	122	89
販売	4	2	4	2
現業（技能）	4	0	4	0
その他	4	8	4	8
合計	153	102	134	89

静岡県西部地区は、自動車産業および情報産業の好調にささえられて、昨年に比べ求人数の増大がありました。やはり内容的には、現業が多く事務は昨年並でした。本校への求人状況もなかなか好調であり、産業分類でみると、製造「一三七」・卸小売「一三〇」・金融保険「三〇」・運輸通信・電気ガス「一二」・サービス「五〇」件と昨年を上回っています。ただし、金融保険の伸びが認められず、むしろ今後減少傾向になるのではないかと心配されます。職種分類では、事務「三二九」・販売「四四」・技能「二四」・その他「四三」です。技能への求人は、西部地区としては増加していますが、本校では例年求職者がでませんのでうすくなっています。

一回目の受験状況をみると、別表のとおりです。民間企業が圧倒的に多く、また業種別では製造が三分の一となっています。職種は、殆どが事務職になっています。昨年と同様の合格割合になっていますが、事務職における選考試験は厳しさが一段と増してきました。実力のある者、礼儀作法のしっかりした者、言葉遣いはもとより、礼儀作法のしっかりした者、言葉遣いはもとより、服装など日頃から心掛けなくてはいけません。一時凌ぎではとうてい合格できません。毎日の努力が必要です。実力のつくように勉強をしましょう。

「アルバイト禁止」是か非か

現在私たちのアルバイトは期間といい、職種といい多くの制約をうけていて禁止同然となっている。

学校の建て前には一理あろうが、少なくとも教育が私たちの自立を援助する、という側面があることからすれば、なまの社会から私たちを、隔離しよう、隔離しようとする方向には再考の余地があるのではないか。

そうした考えに基づいて一年生四人から、アルバイトについての私見を寄せてもらった。

アルバイト禁止について

15HR　菅　武史

南高では、アルバイトは禁止（一部除外）となっている。生徒は校則だから守っているが、何故アルバイト禁止となるのだろうか。アルバイトをすることにより得られることは、人生において、役立つことが大であると思う。

金銭の大切さ然り、時間の使い方然りである。それを「教育的によろしくない。」で禁止するのはどうだろうか。

要は生徒の自覚であろう。

アルバイトについて

16HR　鈴木千晶

そもそもアルバイトというのは親からもらうお小使いでは足りなくてお金が欲しいからやるのであって、働きたいからということは、あまりない。

でも自分の欲しい物を親にねだらずに、自らかせいで、そのお金で、買うということは、いい事だと思う。それをなぜ学校は禁止するのだろうか。それは多分アルバイトをすることによって、悪い方向に行ってしまった例があったからだと思う。

しかし、それはあくまでも前のことであって今では関係のないことだ。だから、ぜひアルバイトをさせて欲しい。アルバイトをすることによってきっと、良い勉強になると思う。

アルバイトは勉学の敵？

18HR　村越美希

南高校では、アルバイトを禁止している。なぜ、禁止しているのだろうか。

入学したとき、ある先生は、こんなことをいっていた。

「アルバイトをすると勉強をやらなくなる。お金の使い方が、悪くなる。」

本当にそうだろうか。アルバイトを一日中やっているわけでもないし、アルバイトによってお金の大切さもわかると思う。アルバイトの悪い面ばかり、みていないで、良い面も先生方にみてもらいたいと思う。

表裏を正当に評価せよ

18HR　内山晶子

今、南高校では、アルバイトは禁止されています。

その理由としては、多分「アルバイトをすると勉強がおろそかになる。アルバイトでもらったお金を、悪い事に使う。」というようなことだと思うのですが、悪いことばかり考えずに、良いことも考えてみたらどうでしょうか。例えば、社会人に交って働らくので、責任が持てるようになったりして、よい社会勉強になると思うのですがどうでしょうか。物事には、必ず裏と表があるのだから、裏ばかり見ていたら、何もはじまりません。

表を見て、新しく始める。これを他のことにも同様にすれば、南高の「無気力」も徹回できるのではないでしょうか。

校内TOPICS

御長男誕生 喜びの岩本さん

図書館司書をなさっている岩本さんが、九月八日に男の子を出産なさいました。「宣巳」君と命名されたそうです。母親になった感想は「自分が母親になって母親の偉大さを身をもって感じました。今は子供にかかりっきりで自分の事をする暇がありません。」とうれしい悲鳴をあげていらっしゃいました。健康で心の広い人になってもらいたいということですが、宣巳君が伸び伸びと成長されるようお祈りしたいですね。まさしく女は弱し、されど母は強し、のお姿でした。

編集後記

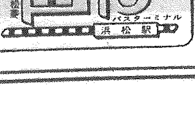
遠州名物「からっ風」がいよいよ本格的な冬を運んできました。今年もあと残りわずか、今年一年間の反省をしたり、来年の目標をたてたりと、一年の内で今が一番意義のある時期なのかもしれません。我々新聞部一同も今年発行した新聞のお粗末さを反省し、来年はより一層の内容充実を目指していこうと思います。御期待下さい。

今回の第74号南高新聞は来年へのステップとして、二年ぶりに四面新聞に挑戦してみました。四面新聞にすることによって部員一人一人の分担が増え、非常にたいへんな作業になりました。特に特集の留学生ネイト君のインタビューは言葉の違いもあってか担当の者がかなり苦労していたようです。

今回の新聞を読んで私達のいきごみを感じていただければ幸いです。

（村上）

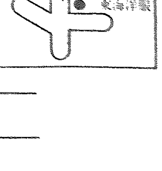
コンタクトのアイラブティ浜松
O₂透過性コンタクトがさらに進歩！
新発表
瞳イキイキ、酸素がかようコンタクト
最新の材質が酸素をよく通し、やわらかく水ぬれ性に優れていますので、装用感がさわやかで、瞳に無理な負担がかかりません。毎日のお手入れも簡単です。ハイドロケアや煮沸消毒はいりません。
瞳イキイキ、酸素がかようコンタクト
HOYA HARD OP（オーピー）
今がチャンス
オールメーカー
コンタクトレンズがな、なんと
学生ご優待価格で！



●受付時間　10:30A.M.～6:30P.M.
●休　日　水曜（日曜・祭日は平常通り）
☎0534（55）1383㈹
〒430 浜松市旭町11-1 プレスタワービル8F

旅行券の分割前払いプラン
たびたび
旅行券の分割前払いプランは、
交通公社が独自に開発した画期的なシステムです。
●町内会・PTAの慰安旅行に　●入園・入学記念に
●サークル旅行、同窓会旅行に　●ご家族旅行に
ラクラク払って、ゆったり旅行を！
あなたの街の交通公社です。
日本交通交社浜松支店（西部デパート前）
浜松市鍛冶町312－18　代表（0534）53－2111
団体（0534）54－6981

本とレコードのお店
BUN GAKU KAN
イケヤ文楽館
☆広い店内には本ありレコードあり
ビデオあり、まさに文化を楽しむ
お店です。
夜10時まで営業
駐車場70台収容可
MAP



レコード・楽器・本
イケヤ
本店／浜松市田町有楽街　☎（0534）52－5151㈹
鍛冶町店／文楽館高林店／ユニー泉町店／磐田店
袋井店　掛川店　aiai磐田店　浜北店　藤枝店